

# 水口岡山城跡 第1次発掘調査現地説明会資料

平成25年(2013年)3月3日  
甲賀市教育委員会

1. 調査地 滋賀県甲賀市水口町水口
2. 調査面積 200 m<sup>2</sup>
3. 調査期間 平成24年11月14日～平成25年3月中旬(予定)
4. 水口岡山城の歴史

山崎の戦いで明智光秀、賤ヶ岳の戦いで柴田勝家を倒して信長の後継者となった羽柴秀吉は、その後、紀伊を攻め、四国を平定しました。

紀州攻めの際の不幸によって甲賀の武士は皆、改易処分となり、秀吉は甲賀の直接的な支配に乗り出します。その時に築かれたのが水口岡山城です。水口岡山城が築城された頃は、秀吉が天下統一に向かっていた最中であり、東国制覇の足掛かりとしても重要な位置を占めた城でした。

水口岡山城は、天正13年(1585)に羽柴秀吉の重臣である中村一氏によって築かれ、天正18年(1590)に増田長盛が入城し、さらに文禄4年(1595)には長束正家が入城しました。歴代の城主は、いずれも豊臣政権の中核部で活躍する人物です。

慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いで長束正家が敗れると、水口岡山城は廃城となり、その後、破城されてしまいます。そして、江戸時代には水口藩の御用林となりました。

表1 水口岡山城跡関係年表

年号	西暦	水口岡山城	秀吉の動きなど	
天正	10	1582	本能寺の変 信長の死 山崎の戦い 明智光秀討伐 清洲会議	
	11	1583	賤ヶ岳の戦い 柴田勝家を敗る 大阪城の築城開始	
	12	1584	小牧・長久手の戦い	
	13	1585	築城 初代城主 中村一氏 和泉岸和田城より移封	紀州攻め 四国平定 關白宣下
	14	1586		太政大臣 豊臣姓を賜る 聚楽第の着工 越中攻略
	15	1587		九州征伐 島津義久を敗る 西日本を手中に収める
	18	1590	中村一氏 駿河駿府城へ移封 増田長盛 入城	小田原征伐 北條氏敗る 東北仕置き 天下統一 徳川家康を關八州に領地替
文禄	元	1592		
	4	1595	増田長盛 大和郡山城へ移封 長束正家 入城	
慶長	2	1597	朝鮮出兵 慶長の役	
	3	1598	秀吉の死	
	5	1600	長束正家 敗走・籠城 池田長吉に攻められて開城 その後、廃城となる	関ヶ原の戦い

## 破城とは？

戦国時代から江戸時代にかけて行われた城を崩して廃止することをいう。城割(しろわり)とも呼ばれる。

破城の方法としては、建物の撤去、石垣の破脚や撤去、堀の埋め立てなどがあり、肥前名護屋城の石垣の破脚や大坂冬の陣の後に行われた大坂城の堀の埋め立てなどが有名である。

## 5. 調査位置と目的

今回の調査は、大きく 3 カ所を対象として実施しました。第 1 区は大手枡形虎口、第 2 区は大手枡形虎口の南側にある曲輪、第 3 区は伝西の丸の南西側に位置する曲輪です。

第 1 区では城の中枢部への出入り口となる大手枡形虎口の構造を解明するために 3 つの調査区を設定しました（第 1 区①～③）。

第 2 区では大手道沿いに位置し、大手枡形虎口を守るように配置された曲輪について、石垣の有無を確認するために 2 つの調査区を設定しました（第 2 区①・②）。

第 3 区では伝西の丸に石垣がめぐっていたのかを確認するとともに、曲輪の虎口の状況を確認することを目的に 2 つの調査区を設定しました（第 3 区①・②）。

## 6. 調査の概要

### （1）大手枡形虎口（第 1 区）

②・③調査区で石垣の存在を確認しました。石垣は、ほぼ 1 段目しか残っていませんでしたが、当時、枡形虎口内の石垣は垂直に近い角度で立ち上がっていたとわかりました。

石垣の前面には多くの崩落した石が散乱していました。水口岡山城は、関ヶ原の戦いの後に廃城となります。崩落していた多くの石は、破城の状況を示していると考えられます。

また、上面を平らにして設置された大きめの石を数石確認しました。枡形虎口の床面には石を敷いてあった可能性が高いと思われます。

①調査区では土塁裾部で石を抜き取ったみられる溝状の遺構を見つけました。現在は土塁しか残っていませんが、当時は石を積んでいたようです。

### （2）大手枡形虎口南側の曲輪（第 2 区）

①調査区では石垣を確認することはできませんでしたが、②調査区で石垣を見つけました。石垣は 1 段目しか残っていませんでしたが、多くの裏込石を見つけました。裏込石には拳大から人頭大まで様々な大きさの石が使われています。また、地表面観察で曲輪南側斜面にも石垣があることがわかりました。この曲輪は石垣に囲まれ、大手枡形虎口を防御する機能を有していたと想定されます。

### （3）伝西の丸南西側の曲輪（第 3 区）

①・②調査区の 2 箇所について調査しましたが、どちらも石垣を確認することはできず、地山が露出しました。どちらの調査箇所も石垣ではなく、岩盤や地山を削った切岸であったことがわかりました。

## 7. 今回の調査でわかったこと

- ① 大手枡形虎口にて石垣を壊した破城の状況を確認。
- ② 現況の地形が城の構造を反映していることを確認
- ③ 推定大手道の周辺で石垣を確認。主郭部および大手道周辺は総石垣であった可能性。
- ④ 伝西の丸周辺は石垣ではなく、岩盤もしくは地山の切岸であった。

### 13. まとめ

#### “「水口岡山城」の全容を解明する第一歩！”

今回の調査において地下に埋もれた石垣を発見したことで、今まで謎に包まれていた水口岡山城の一端が明らかになってきました。また、その石垣が破城によって壊された状況も確認することができ、これまで文献史料の中でしか分からなかった水口岡山城の歴史を発掘調査によって確認することができました。今回の調査成果によって水口岡山城の姿が見え始めました。調査は今後も継続していく予定です。いずれ城の全容が解明できることでしょう。今回の調査を足掛かりとして、全容解明への第一歩を踏み出しました。

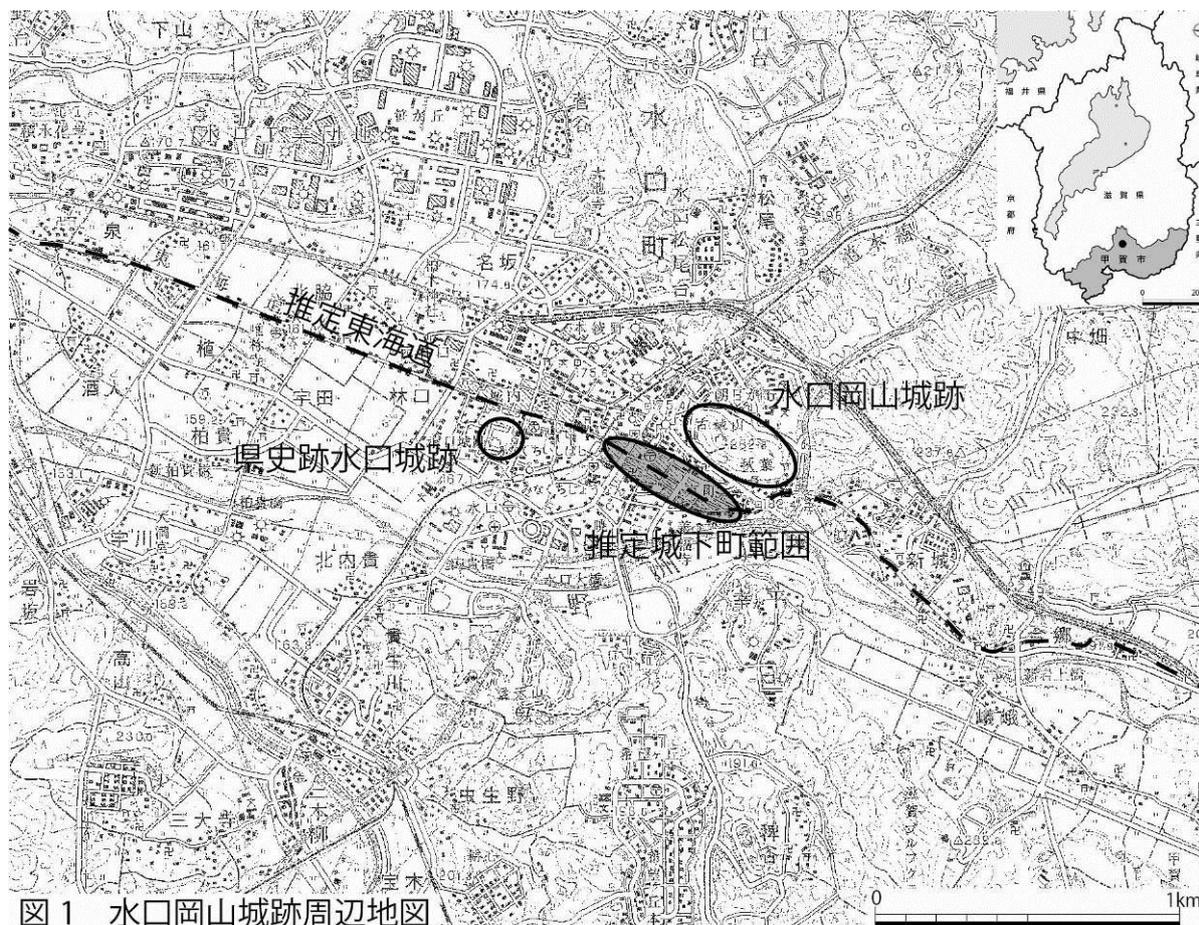


図1 水口岡山城跡周辺地図

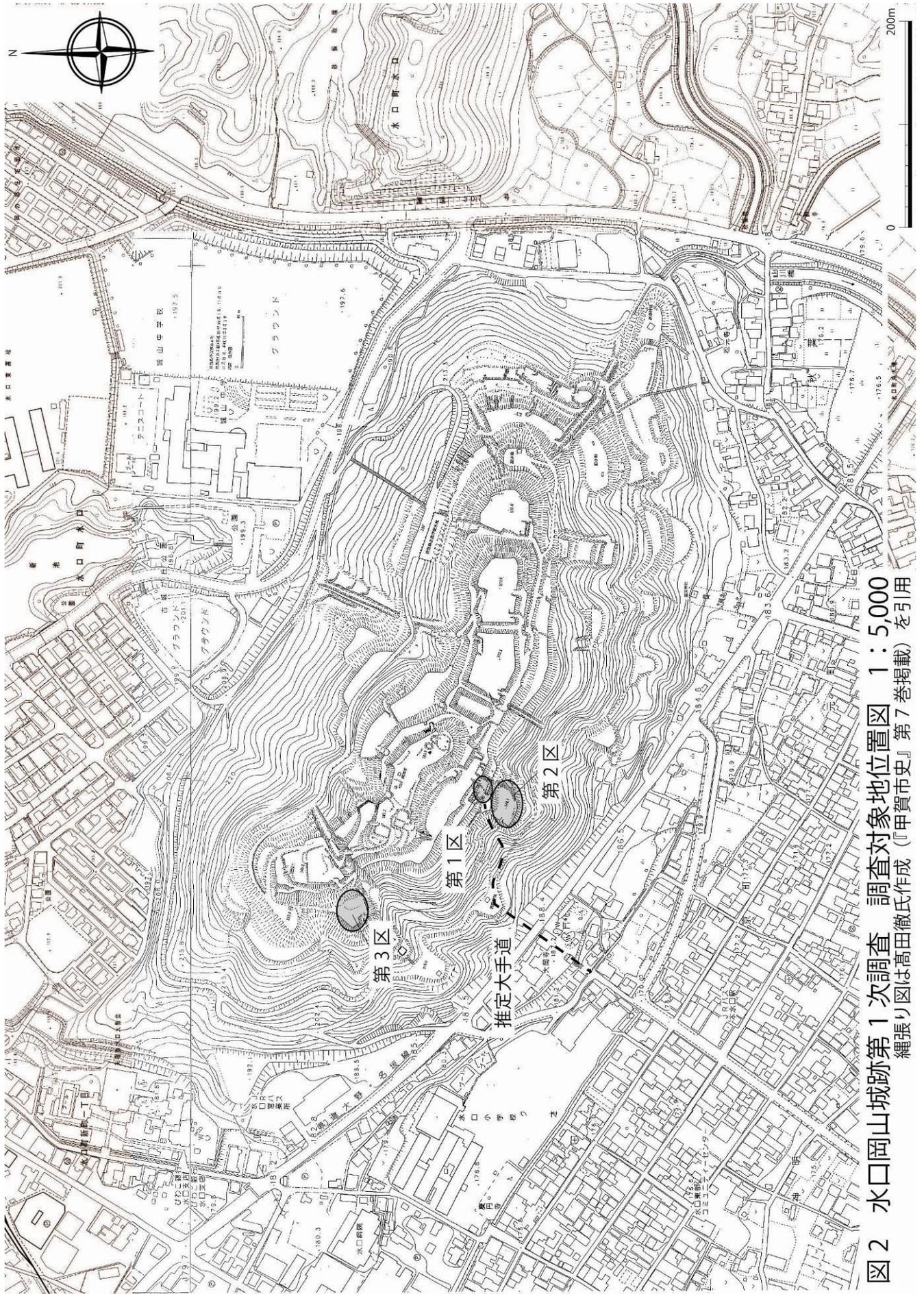


図2 水口岡山城跡第1次調査 調査対象地位置図 1:5,000  
 縄張り図は高田徹氏作成(『甲賀市史』第7巻掲載)を引用



写真1 第1区②調査区 石垣破壊状況



写真2 第1区③調査区 石垣と床面の石



写真3 第2区②調査区 石垣



写真4 第3区①調査区 調査状況